

なぜ教育実習も 情報化が求められたのか

教職免許を出す、すべての大学において、教育実習があり、そのための準備・まとめ科目として、教育実習事前指導・事後指導が位置づけられている。

本学の場合は、附属校園、学部教育、奈良県教育委員会の協力の下、学校教育教員養成課程で、三回生の前期に毎週木曜日の午前中を活用して（観察実習及び授業・保育後の検討会を含む）充実したプログラムを展開できている。

しかし、そうであっても、やはり学んできたことを実践につなげて考えてみる、教育学的（内容）知識を培うことは簡単ではなかった。

これまでの「大学の講義は役立たない」「実践を多く見ればそのうちわかってくる」といった、ひとりよがりの実践解釈へ走る受講生も多く見られたからである。

Eラーニングの試行

そこで、本学では、六年ほど前から、インターネットを活用して、とりわけ教育実習事前指導の段階で様々な支援を試みてきた。

ここでは、教育実習に関わる諸連絡の部屋、講義や観察実習後に、各自がその日に学んだことを振り返って考え、仲間とコミュニケーションするための電子掲示板、先輩の実習時の指導案や授業記録

教育実習の情報化 —Eラーニングと支援CD—

附属教育実践総合センター・助教授
小柳 和喜雄

などを見るための部屋、教員採用試験対策情報など、多様なサービスが提供されてきている。

しかしながら、教室での実践経験を経ていないためか、実習掲示板に書かれる言葉が、「学ばせていただきました」といった感想になり、どうも、自分の言葉になっていないのだ。評論家になつてしまっている状況でもある。

そこで、受講生を、実践の状況に埋め込んでいくために、彼ら

の先輩達が観察実習や教育本実習時に遭遇した同じ目線の問題状況をケースとして取り上げ、その事例について考えさせるような工夫を試みることにした。それが事前指導時の観察実習の機会をより豊かにできると考えたからである。

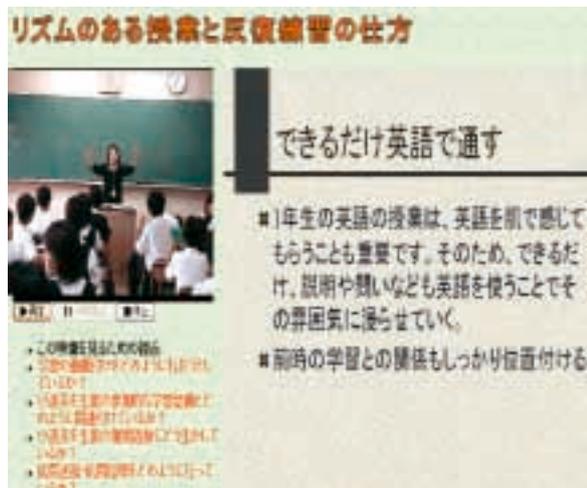
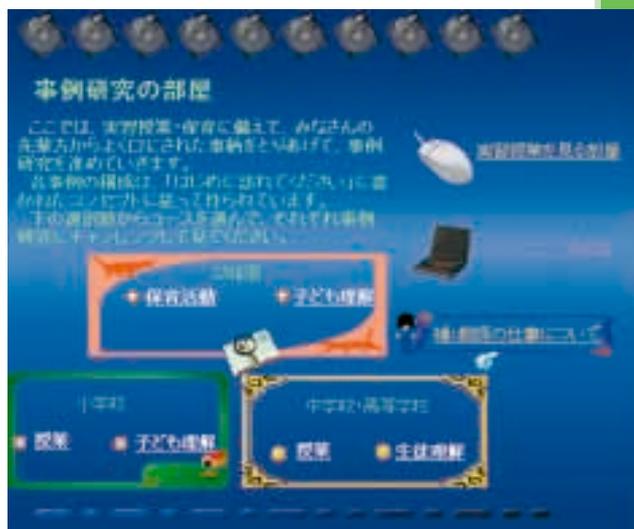
支援CDの開発

今回、事例をストーリー的に語り、受講生を問題状況に追い込み、あなたならどうするといった展開を取るケースベース教材の手法を用いて支援CD教材を開発した。

インターネットに接続している場合は、書き込んだ内容を受講生が互いに確認し論議でき、担当者からアドバイスが再度入るなどの工夫もなさ

れている。

さらに、情報化の過渡期を意識して、先輩の実習の様子などを映像で記録したものを、接続料金を気にしないで、いつでもどこでも見られるように、マルチメディアCD教材として仕上げた。すなわち、時間や場所に制約されることなく、学生に学びの機会を与え、大学で行われる事前・事後指導を補っていくためである。



このプロトタイプ版は三年前に開発され、受講生評価を受け、今、二世代目である。まだ課題は残しているが、今年度受講生にも使ってもらった結果、評判は上々であった。今後もこれらの教材が少しでも、教育実習を豊かなものにできればと期待している。